

上越市立板倉中学校 学校運営協議会たより

第2号 R3.10.4 板倉中学校学校運営協議会事務局

9月24日（金）に第2回学校運営協議会を開催しました。令和3年度1学期の教育活動の成果と課題、部活動の再編計画を中心に、意見交換を行いました。

<協議内容>

1. 1学期～9月までの学校行事実施状況と、今後の実施予定
2. 1学期の教育活動の振り返り
3. 全国学力・学習状況調査に見られる生徒の実態
4. 部活動の再編



主な協議内容

1. 1学期～9月までの学校行事実施状況と、今後の実施予定

(1) 説明の概要（教頭・教務）

- ・1学期はほぼ予定通りの行事が実施できたが、2学期当初の県の感染状況から、体育祭の短縮実施、合唱祭の中止、宿泊を伴う修学旅行の実施の中止の措置をとった。修学旅行は代替活動を2日間計画し、地域貢献活動は各学年の「総合的な学習の時間」の中で、今できることを考え実施していく予定である。
- ・今年度いっぱい、来賓を招いての学校行事は実施しない予定である。

(2) 主なご意見等

- 11月7日に「板倉ふれあいまつり」を1日日程で実施する。感染症対策を万全にしながら実施したい。
- 区のゆるキャラ作りに向けて、小学生のデザインした作品の審査に、中学生も参加してもらっている。

2. 1学期の教育活動の振り返り

(1) 説明の概要

① 1学期の学校評価から窺える生徒の様子（教頭）

- ・「学校生活が充実している」「学校行事に積極的に取り組んでいる」「周りの人のことを考えて行動している」の肯定的評価が前年度よりも増加しており、生徒がコロナ禍でも前向きに学校生活に取り組んでいる姿が見える。
- ・「学年で目標とする時間や量の家庭学習をしている」の肯定的評価が、学年差はある

ものの、全体としては63.5%であった。また、「将来の目標をもっている」の肯定的評価が70.3%であった。将来の目標をもつことが家庭学習の意欲向上にもつながると考えられるため、キャリア教育や学習指導等について一層の工夫改善を行っていききたい。

②校内の3プロジェクトの主な取組（教務）

- ・学力向上プロジェクト→家庭学習について「宿題を確実に行わせる」という方針は、一定の成果を上げている。宿題になかなか取り組めない生徒への指導を工夫していくとともに、進路学習と連動させながら、家庭学習への意識を高めるための取組を今後とも工夫していきたい。
- ・豊かな心プロジェクト→行事や総合的な学習の時間、道徳等の活動で、概ね「思いやり」や「人間関係づくり」等の意識を高める取組ができた。2学期は、小学校と連携した取組も行われる予定であり、継続的な取組を行っていききたい。また、地域貢献活動については、「今できること」を考えて、学年の実態に応じた取組を工夫したい。
- ・体力向上プロジェクト→毎日の「デイリーライフ」記入や、区学校保健委員会の活動等により、自分の生活を見つめて改善しようとする意識の高まりが感じられた。全体としては、メディア接触時間をコントロールする力をつけることが課題である。現在の取組を継続しながら、養護教諭や栄養教諭と連携してよりよい生活習慣を考える機会を作っていきたい。

3. 全国学力・学習状況調査に見られる3学年生徒の実態

(1) 説明の概要（教務）

- ・国語の正答率は全国平均と同程度、数学の正答率は全国平均をやや下回る結果であった。
- ・質問紙調査の結果から、基本的な生活習慣は良好で、自己肯定感をもち、周りの仲間を大切にしながら学校生活を送っている様子がうかがえる。一方で、「携帯電話等を持っているが家の人との約束はない」「平日に3時間以上ゲームをしている」と答えた生徒が全国平均を上回っている。学校評価の結果と併せて、ゲームを含めたメディア接触時間をコントロールする力を、家庭とも連携して身に付ける必要があることがわかる。また、「平日に2時間以上勉強している」と答えた生徒が、全国平均を大きく下回っている。「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた生徒が全国平均を上回っており、ここから、家庭学習をしていないわけではないが1人である程度の時間学習することが厳しい生徒が一定数いることがわかる。
- ・数学の第1問の正答率から「小学校時代に身に付けさせたい基礎・基本を補充する場が必要」であり、また、学習に関する質問紙の調査結果から「学習方法や学習内容について個に応じた指導が必要」であることが課題として見えてきている。ただ、毎日の活動の中で、個別に指導する時間の確保や指導者の確保が厳しい現状がある。

(2) 主なご意見等 (2. 3を通して)

○学習について

上級生が下級生を教える場を作り、学習意欲の向上や質問しやすい雰囲気作りを図ってはどうか。

○キャリア教育について

「将来の目標をもっている」の生徒の肯定的評価が70.3%、「子どもが将来の目標をもっている」の保護者の肯定的評価が56.6%と、親子で差が見られた。今までになかった職業が続々と生まれている中で職業の選択肢は広がり、生徒は例えばYouTuberなどの新しい職業にも目を向けている。そのため、「親と相談しても……」という思いがあり、なかなか親子で将来について語る場がないのかもしれない。中学生なので「目標」とまではいかななくても、ぼんやりした「やってみたい」がもてればよいのではないか。

○学校から

- ・大人が働いている姿を見る機会が少ないため、近年は「ノルマをこなして得たお金を好きなことに生かしたい」と考える若者が多く、職業そのものに対する熱がない。キャリア教育は「志を語れる子どもを育てる」ことをねらいとしているが、「人生の先輩に学ぶ」等の取組を続けながら、「働く」ことについて親子で話題にできる場を作りたい。
- ・2年続けて「職場体験学習」が実施できなかったが、「マナー講座」は実施できた。職業に就いたときに、やはり人間関係を作れる力が必要であり、マナー講座は、その力を育む1つの取組である。学習でも仕事でも、わからないときに「教えてください」と言える生徒を育てたい。

4. 部活動の再編

(1) 説明の概要 (教頭)

- ・生徒数の減少、それに伴う職員数の減少によって、現在の7つの部の活動をそのまま継続していくことは極めて困難である。そこで、部活動再編に向けて、全ての部について、「活動が存続した場合の利点や、少人数になったときの活動の見通し」「部としての活動がなくなった場合、その種目や活動にどのように取り組めるか」について各顧問と相談し、整理した。
- ・今後3年間で、生徒数・職員数ともに激減する予定である。再編に向けての取組について、ご意見をいただきたい。

(2) 主なご意見等

○有恒高校の取組

→職員数を考えて団体競技の部活動はなくし個人で出場する部活動だけを残した。

○小学校の課外活動

→今まで行われてきた、ミニバスや金管等の課外活動は、ここ数年ですべてなくなるかもしれない。経験がないため、入学生の部活動選択の幅は狭くなる可能性がある。部活動については、小学校等との連携で考えていくべきかもしれない。

○学校だけでこの問題に取り組むには限界がある。保護者や地域で相談し、議論していくべきである。また、これは板倉中だけの問題ではないため、上越市としてどのように取り組んでいけばよいのかに軸を、変えていくべきではないか。

○他校はどのように取り組んでいるのか？

→(学校の回答)「部活動の数は減らすべき」には賛成だが、「どの部をなくすか」という問題になると、まとまらなくなることが多い。現在、三和区や中郷区では、市からの補助金を得て地域で総合スポーツクラブを設立・運営し、生徒はそこに加入して、指導者が学校に来て教えるなどの取組を行っている。ただ、指導者の確保や指導者の報酬という課題は残っており、どの地区でもこの取組がうまくいくとは限らない。

○「学校で部活動をする」という時代ではなくなっているのではないか。スポーツ等も、学習塾に行かせる感覚で地域のサークル等に入るという方向になってきているように思う。

○学校から →国は、部活動の意義を学習指導要領解説において以下のように示している。「教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる**部活動**については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする」また、「令和5年度には、教員が土日に部活動をしなくてよい体制にする」という目標を掲げ、地域での「指導員」制度等の取組を進めている。

○今後、保護者や生徒、小学生等の意識調査をしたり、臨時のPTA等を開いて理解を得たりする取組を考えてはどうか。部活動数の削減は避けられないことなので、どのように理解を得て進めていくかを今後も議論していきたい。

○まずは、保護者を対象にアンケート調査を行うべきである。